

# 図書館へ行こう！

おめでとう！！ 高校読書感想文コンクールの県の審査で、自由読書の部、課題読書の部それぞれ両部門ともに、学院から県代表が選出されました。県内の総出品数 5,343 通から、2作品だけが選ばれる超難関です。全国審査は来年1月の予定となっています。なお、自由読書の部・県代表の次点も学院生の作品でした。

**自由読書の部** 県代表・古賀彩華さん(高2)「道化」 次点・町川祐紀くん(高3)「漂流の終着点」

**課題読書の部** 県代表・野村優花さん(高1)「『正しい』こと」

県の審査を担当された県立高校国語科の先生は、この3作品を含む上位の作文に共通する要素として①伝えたいキーワードが一貫していること。②読後感想と自分の体験とのバランスが程よいこと。を挙げて審査報告されました。また、変わっていく大学入試のスタイルを見据え、受験生にこそ新書や難解文に取り組み、自分の考えをまとめる勉強として読書感想文に真剣に取り組んでほしいと話してくださいました。

## NHK美の壺編他『長崎の教会』

16世紀、宣教師フランシスコ・ザビエルが日本にキリスト教を伝えて以来、キリスト教が繁栄してきた長崎。江戸時代の禁教令で、キリシタンたちは弾圧され潜伏し、やがて復活します。

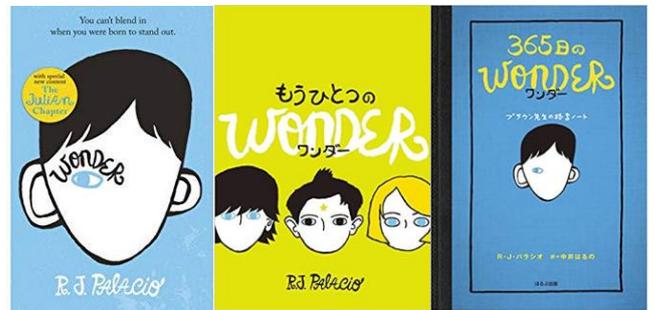
司祭がいらない状態で伝承された信仰は、正式なカトリックとは異なる「かくれキリシタン」として独自のキリシタン文化を築きあげました。複雑な歴史の中で、信徒たちが造り上げた「祈りの場」はどのようなところなのか。

平戸、長崎、外海、五島。今年六月、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産が世界遺産に登録されました。信徒たちが心を込めて造り上げた美しい教会と聖地をたくさんのカラー写真で紹介する本の数々です。ぜひご覧ください。



この冬、とびつおきの一冊に出会いましょう

## R・J・パラシオ著 シリーズ『WONDER(ワンダー)』



10歳の少年オーガストをめぐる物語『ワンダー』、その続編『もう一つのワンダー』、そこから生まれた格言集の3冊を紹介します。

生まれつき顔に障害があるオーガストが、初めて学校に通うことになるところから物語は始まります。クラスメートはその顔に悲鳴をあげ、じろじろ眺め、避けようとしますが、そのうちオーガストの話面白いと感じる友だちが少しずつ増えていきました。そんな時、夏のキャンプで…。

『365日の…(ブラウン先生の格言ノート)』もおすすめてです。

**「正しいことをするか、親切なことをするか、どちらかを選ぶときには、親切を選べ」**

## 片柳弘史 著『ほんとうの自分になるために』『あなたのままで輝いて』『世界で一番大切なあなたへ』



「ほんとうに自分がしたいことはなんだろう?」「いまのままの自分でいいの?」生き方に悩んだとき、自分に自信をなくしたときに勇気と知恵をくれる「マザー・テレサの言葉」を選び、愛のあふれる温かい絵とともに紹介します。

「できないのではありません。できることが違うだけです」

「ありふれたことに、人並み外れた愛を込めなさい」

「見ているはずなのに、見えていないことがたくさんあります。心の目を開いて、しっかり見ましょう」… 解説文を執筆した片柳弘史氏は、カトリック教会の神父でマザー・テレサに神父になるよう勧められ神父になった経歴の持ち主。マザーのことをよく知る神父だからこそ書けた一冊です。

自分の「心の声」を聞くための方法も掲載! 「人間が生きてゆくために必要なものは、すべて愛の中にあるのです」

寒い季節がやって来ました。屋内で過ごすことが多くなるこの時期は、長めの小説や分厚い本にチャレンジしてみましょう。本は、心に栄養を与えるだけでなく、目標に向かって進む力と将来への自信を与えてくれます。この1冊に出会ってよかった! そんな本との出会いは、この冬に訪れるのかもしれない。